第 21 回　環境保全研究所公開セミナー
「岳都の自然、今とこれから」が開催されました

通算第21回目となった公開セミナーが、2015年12月6日（日）に松本市で開催されました。当日はあがたの森文化会館の講堂を会場に、研究所と市のスタッフを除いて、89名の参加がありました。基本テーマは「岳都の自然、今とこれから」で、以下のとおり研究所から４題、松本市環境保全課から１題の発表がありました。

〈発表テーマ〉

・信州の地学遺産と松本市
（環境保全研究所　富樫　均）

・松本地域の希少/外来植物
（環境保全研究所　大塚孝一）

・希少淡水魚の現状
（環境保全研究所　北野　聡）

・伝統行事における野生動植物の利用
（環境保全研究所　浦山佳恵）

・生物多様性保全への松本市の取り組み
（松本市環境保全課　阿部航大氏）

会場（あがたの森文化会館講堂）

富樫からは、松本盆地の三川合流地点と犀川の地形の意味を泉小太郎伝説にからめて解説し、県内の地学遺産や新しい地質図の紹介などを行いました。大塚は、松本周辺地域の植物にまつわる研究史や特徴的な固有種の話題、オオカワジシャなどの外来種に関する知見についての紹介がありました。北野からは、ホトケドジョウやスナヤツメなどの周辺地域の絶滅危惧種の解説と、上高地における在来イワナと外来のカワマスとの交雑についての研究紹介がありました。浦山からは、県内各地の伝統行事の中で、野生動植物がどのように利用されてきたのかについて、生態系サービスとの関連も含めた研究の紹介がありました。松本市の阿部氏からは、「松本市生物多様性地域戦略」策定にむけて、これまでに行われてきた調査結果をもとに、全国的にみてもずばぬけて多様性に富む松本市の豊かな自然が紹介されました。

歴史ある講堂での発表の様子

その後の意見交換でも自然環境から伝統文化や市の戦略まで、幅広い対話ができました。最後に阿部氏の「生物多様性が人間の生活に必要不可欠であることを伝えていくのは行政の責任。生物多様性の考え方を広め、社会全体で意識を高めていくことが必要。」という力強い発言をもって閉会となりました。

国の重要文化財に指定されている旧松本高等学校の講堂というすばらしい会場での公開セミナーは、これまでとひと味ちがった趣がありました。共催になっていただいた松本市には広報や準備等で多大なご協力をいただき、ありがとうございました。

（企画担当　富樫　均・北野　聡）